

# 天国の花菜さんにささげる絵本

## 母の光美さん制作

事故前夜書いた「夢があるっていい。」言葉をタイトルに

中覆 南 章 橋 豊  
ト 一 ボ

浜松市の浜名湖で2010(平成22)年6月に起きた豊橋市章南中学のカッターボート転覆事故で、西野花菜さん(当時12歳)を亡くした母光美(みつみ)さんが絵本を制作した。タイトルは花菜さんが事故前夜に書いた言葉「夢があるっていい。」。両親は4年間、事故原因解明と再発防止に奔走してきた中で「花菜のためになにかやりたい」と光美さんが昨年12月から取り掛かった。(飯塚雪)



絵本「夢があるっていい。」をながめる父・西野友章さん(豊橋市内で)

物語は難病を患うお母さんを明るく支えていた「花菜ちゃん」の乗ったボートが嵐の海に沈んでしまふ。残されたカバンを開けると、中から事故にあう前に描かれた絵と将来の夢が書かれたしおりが見つかる。

将来の夢が医者だったと、「お父さん」と「お母さん」が知る場面が登場する。事故後、初めて知った娘の夢に光美さんは「涙、涙でした」と振り返る。「病気のお母さんを助けたかったのかなと思っ」と友章さんから

イラストレーターとしても活躍する久保田裕美さんが担当。花菜さんが小学生から習っていた楽器をあしらった。各ページには花菜さんが大切にしていた手のり文鳥「ブルー」が隠れる仕掛けを施した。光美さんは「花菜の夢は途絶えてしまっただが、夢をかなえることができる命を大切にしたい」と話す。7月下旬に完成し、事故の原因解明に取り組む関係者らに寄贈している。

終盤、花菜ちゃん

# 娘との思い出絵本につづる

2014  
8.21  
東日新聞

## 浜名湖のボート転覆で死亡中学生の母

# 「夢があるっていい」出版

豊橋

浜松市の浜名湖で2010年6月、野外実習中の手漕ぎボートが転覆した事故で亡くなった豊橋市立章南中学校1年の西野花菜さん（当時12）の母親の光美さんが、娘との思い出をつづった絵本を出版した。光美さんは「花菜が喜ぶようなものを主人と一緒に作りたかった」と話した。

事故以来、夫の友章さんと事故の再発防止に心血を注いできた光美さんの心境に変化が訪れたのは昨年暮れ。「やっと事故を離れて娘のことだけを思えるようになった」。花菜さんとの思い出を絵本にしたいと思うようになった。つてを頼って刈谷市在住の画家・久保田裕美さんと知り合い、光美さんの文章に絵を付けてもらえることに。何度も打ち合わせを重ね、先月中旬に完成した。

絵本の前半では難病で脚の不自由な光美さんのため、花菜さんが通院を手助けをしたり、つらいときも大好きなピアノやバイオリンを弾いて気丈に振る舞ったりと、花菜さんの優しさに包まれた家族

の様子を明るいつつ、花菜さんがかわいがっていた手乗り文鳥も随所に顔をのぞかせる。そんな幸せな生活

も後半には一変。事故で花菜さんを亡くし、悲しみに打ちひしがれた光美さんは「中学からは、花菜ちゃんの水色のカバンだけが帰ってきました

た」とつづる。絵本には、花菜さんが野外実習のしおりに描いた絵も掲載。カッターボートをこぐ生徒たちの姿と「人に迷わくをかけない」「ルールを守り、団結すれば自然と向き合える」という言葉が記されている。絵本の最後を光美さんは「お父さんとお母さんは最後まで、花菜ちゃんの優



絵本を手にする西野友章さん（豊橋市内の自宅で）

しきにつつまれていたのでした」と結んでいる。

しおりの中には花菜さんが事故前日に書いた文章もあり、自分の夢を「たよられる医者になりたい」と書いていた。「夢があるっていい」という絵本のタイトルも、この文章の1節を引用した。

てつきり花菜さんは音楽教師を目指し

心と心・味の創造



# ゼリー

杉本屋製菓株式会社

ていると思っていた光美さんにとって、医者という夢は初耳で「入院中の私を介助してくれるうちに、人を助ける人になりたいと思うようになったのかな」。

全カラー24ページ、100部作成。夫妻の知り合いに配るほか、一般の人にも読めるよう図書館などに置いてもらえないか豊橋市教育委員会に依頼する予定だという。

（中嶋真吾）